

白高眞實 （ひたか） 教育學者。元治元年九月十七日日向國生れ、明治二十七年八月二十日歿（一八六四―九四）。幼名甲子郎。號桃圃、菊逕。高鍋藩儒白高梅瀨の長子。明治十九年帝國大學文科大學卒。二十一年教育學研究のためドイツ留學、歸朝後の二十五年高等師範學校教授兼帝大文科大學教授に任ぜられるも、翌年病を獲、病臥一年半の末歿す。

帝大卒業生にして教育學專攻者の嚆矢といふ。また國漢學に通じて和歌、漢詩又能くし、英語・ドイツ語に通じ、留學中屢々ドイツ語の詩を作つた。一方漢學者の父を有<sup>も</sup>ち、自らも漢學は云ふに及ばず洋學にも造詣深かつたにも拘らず、言語の如きはやまごころばの使用を主張、例へば停車場・ステーションをへくるまごまりはんと稱入書<sup>まご</sup>、自署の多くは假名を以てした。